

# 事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	集団広聴事業			事業コード	0075
所属コード	120500	課等名	広聴広報課	係名	広聴係
課長名	大倉 慎澄	担当者名	菊池 与志和	内線番号	3632
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要 (旧総合計画体系における位置づけ)

総合計画 体系 (旧)	施策の柱	信頼される質の高い行政	コード	8
	施策	市民とともにつくる行政の実現	コード	3
	基本事業	広聴機能の充実	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 2 款 1 項 2 目 集団広聴事業 (003-01)			
特記事項 (H26)				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	昭和 40 年代 後半	
根拠法令等 (H26)	施策の柱			

### (2) 事務事業の概要

市政推進懇談会は、市政運営方針、予算、各部の重点施策について各町内会長、自治会長を対象に年に一度説明と懇談を行う。

まちづくり懇談会は、市町内会連合会、玉山区自治会連絡協議会と各コミュニティ地区との共催により、地域課題を解決するため市と地域が懇談するもので、2年で全 30 地区を一巡する。

市長のおでかけトークは、市長が市内で活動する団体と団体の活動内容や、市政に対する提言を聴く機会とする。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

#### ① 市政推進懇談会

各町内会長等の意見を直接聞き市政に反映するとともに、地域と市の信頼関係、相互関係を深めることを目的とし、昭和 52 年から開催している。

#### ② まちづくり懇談会

昭和 40 年代後半から行っていた「移動市役所」が契機となり、市長と市民の対話の機会を設け、市民の声を市政に反映するために行っている。

#### ③ 市長のおでかけトーク

市民の生の声を聞くことを目的として、平成 16 年から開催している。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

市民協働推進指針や町内会・自治会協働推進計画が策定されるなど、市と地域の関係はこれまで以上に重要になってきており、市政推進懇談会、まちづくり懇談会の役割も大きくなっていく。

市長のおでかけトークは、申込み団体が減少傾向にあり、市側からの積極的なアプローチが必要な状況となっている。

## 2 事務事業の実施状況 (Do) . . . . .

### (1) 対象 (誰が, 何が対象か)

- ・町内会, 自治会の会長
- ・市民, 地域 (コミュニティ)

### (2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 見込み	26年度 実績
A 市民	人	298,853	299,220	299,585	299,585	298,857
B 町内会,自治会数	町内会, 自治会	374	377	379	379	382
C 地域(コミュニティ)の数	地域	30	30	30	30	30

### (3) 26年度に実施した主な活動・手順

#### ① 市政推進懇談会

- ・年度初めに、市町内会連合会及び玉山区自治会連絡協議会と共催で、町内会長、自治会長等を対象に懇談会を開催。
- ・市から市政運営方針、予算、各部の重点施策を説明し、参加者から市政全般に対する意見、提言を伺い、担当部長が回答した。

#### ② まちづくり懇談会

- ・市、盛岡市町内会連合会（玉山区は玉山区自治会連絡協議会）、地区コミュニティ組織の共催により、15地区で開催。
- ・コミュニティ地区の地域住民と地域課題やまちづくりの方向性について懇談した。

#### ③ 市長のおでかけトーク

知的障がい者等を対象として成年後見の活動をしているNPO法人「成年後見センターもりおか」、盛岡近郊で南部鉄器を製作している45歳以下の職人の集まりである「南部鉄器協同組合青年部」やリース制作体験を通じた環境学習や、リースフェスティバルなどの活動を行っている「Waのまちもりおか「絆の輪」プロジェクト」が、それぞれの団体で考えるまちづくりや抱える問題などについて、市長と懇談した。

### (4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 市政推進懇談会開催回数	回	1	1	1	1	1
B まちづくり懇談会開催地域数	地域	15	15	15	15	15
C 市長のおでかけトーク開催数	回	1	2	2	2	3

### (5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

#### ① 市政推進懇談会

- ・町内会長・自治会長等に当該年度の市政運営について理解してもらう。
- ・町内会長・自治会長等の意見提言を市政運営に生かす。

②まちづくり懇談会

- ・市と住民の協働によるまちづくりへの意識の醸成を図る。
- ・地域住民の懇談事項・要望事項を市政に反映する。

③市長のおでかけトーク

- ・市長と市民が直接市政に関する懇談を行い、市政に反映する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 市政推進懇談会出席者数	■上げる □下げる □維持	人	186	196	160	200	145
B まちづくり懇談会出席者アンケートの満足度	■上げる □下げる □維持	%	57.0	63.1	45.1	65.0	59.6
C 市長のおでかけトーク出席者数	■上げる □下げる □維持	人	24	34	35	50	46

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	197	28	59	123	136
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	197	28	59	123	136
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	0	0	0	0	0
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	0	0	0	0	0
計	トータルコスト A+B	千円	197	28	59	123	136
備考							

3 事務事業の評価 (See) . . . . .

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

市民の市政への参加に繋がり、市民の声が市政に反映される。

② 市の関与の妥当性

市長をはじめとする市が直接市民の声を聞くものであり、市が行うべき事業である。

**③ 対象の妥当性**

市民を対象としているものであり、拡大や絞る余地はなく妥当である。

**④ 廃止・休止の影響**

市政推進懇談会：地域住民の代表としての町内会長等に、当該年度の市政についての理解協力を求め、懇談する機会を失うこととなる。

まちづくり懇談会：市長をはじめとする市が、定期的に地域に直接出かけて懇談を行う数少ない機会であり、地域住民の声を直接聞く機会を失うこととなる。

市長のおでかけトーク：市長が市民と直接話す貴重な機会を失うこととなる。

**(2) 有効性評価（成果の向上余地）**

まちづくり懇談会については、参加者の年齢が高い傾向にあることから、幅広い年代の市民が参加することにより、より充実させることが可能である。

**(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）**

市民を対象としているものであり、受益機会は公平・公正である。

**(4) 効率性評価**

配布資料を作成するための経費（用紙購入、印刷）のみの予算であり、削減の余地はない。

なお、平成 23 年度から懇談会当日の従事者を減らすなど、人件費の削減に努めている。

**4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .**

**(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）**

総合計画 体系（新）	施策（方針）	市民参画や協働によるまちづくり	コード	101
	小施策（推進項目）	広聴機能の充実	コード	3

**(2) 改革改善の方向性**

まちづくり懇談会については、より幅広い年代の参加が得られるよう地域と協議する。

**(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法**

まちづくり懇談会は、参加者を町内会役員等に限定している地域も見受けられることから、幅広い年代の参加が得られるよう、地域団体に対し、小中学校 PTA や子ども会世話人などへの呼びかけを依頼する。

懇談事項の項目の検討については、要望事項と懇談事項の違いを明確に説明し、細かすぎて一部の出席者しか理解できないような懇談事項にならないよう、地域との打合せの際にお願いする。

**5 課長意見 . . . . .**

**(1) 今後の方向性**

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

## (2) 全体総括・今後の改革改善の内容

まちづくり懇談会の参加者アンケートでは、参加して「満足」又は「やや満足」の割合が前年を大きく上回ったが、今後の懇談会の充実のためには、参加者の意向をより詳細に把握する必要があることから、27年度からアンケート内容を見直すこととした。

町内会・自治会は、市にとって、市民協働のまちづくりを進める上で大切なパートナーであり、市長と幹部職員が地域の方々と直接話をする「まちづくり懇談会」をはじめとする事業は今後ますます重要になるものと考えており、より効果的な開催に向けて検討していきたい。